

(様式1)

校種	小・ \oplus どちらかに○	学校番号	12	学校名	宇都宮市立瑞穂野中学校
----	-----------------------	------	----	-----	-------------

平成30年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤に、豊かな心と個性をもち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる人間を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など） ()内は生徒の指標

- 心身ともに健康で、気力あふれる生徒 (強 く)
- 自ら学び、創造性に富む生徒 (賢 く)
- 勤労を尊び、責任感のある生徒 (明るく)
- 思いやりがあり、心豊かな生徒 (親切に)

2 学校経営の理念

生徒が互いの個性を認めつつ、学習や行事、部活動などに目的をもって取り組む中で、自分のもつ良さに気づき、将来にわたって自分を高めようとする生徒を育成する。

そのために、教職員は自己に与えられた使命を自覚し、自己研鑽に励み、ひいては保護者や地域から信頼される学校を目指す。

3 学校経営の方針

[瑞穂野地域学校園 教育ビジョン]
9年間の連続した学びの中で、
生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）
を育てる小中一貫教育

- (1) 生徒が安心して自分の成長と向き合うことができる公正で温かな学校づくりに努める。
- (2) 教職員は自己の使命と責任を自覚するとともに、常に自己研鑽に励み、専門職としての力量を高める。
- (3) 多様な生徒の存在を認識しつつ、生徒との人間的な触れ合いを深め、人権感覚を磨きながら生徒理解や指導方針に基づく指導を推進する。
- (4) 学校課題を明確化し、課題解決に向けて組織的に取り組む。
- (5) 生徒の社会的自立を促すために、創意ある教育課程の編成に努める。（キャリア教育の視点）
- (6) 9年間を通して、生きる力をはぐくむ小中一貫教育の最終段階として、学びを広げ深められる環境を整える。
- (7) 質の高い教育を目指して、学校業務の明確化、効率化や時間を意識した働き方を推進する。（教職員の働き方に関する視点）

4 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

（1）学校運営

- ・ 全職員が取り組むべき学校の課題を共通認識し、課題解決のために組織的に対処する。
- ・ 業務改善を進め、生徒と向き合う時間の確保を目指す。
- ・ 学力を高めるためのカリキュラム・マネジメントを行っていく。

（2）学習指導

- 論理的に考え、思考を深めあう学習活動の推進
- 自主学習（家庭学習）習慣の定着を目指した指導の実践
- つまづきに気づき、克服させる振り返り活動を取り入れた学習指導の実践
- ・ 学校課題に即した研究授業の実践
- ・ 各種調査等の分析をもとにした課題を組織的に解決するP D C Aサイクルの確立

（3）児童生徒指導

- ・ いじめがおきない、不登校を出さない指導の展開、保護者への学校の取組の周知
- ・ 校内対策会議等を活かした、組織的で迅速かつ継続的な対応
- ・ S C、関係諸機関との連携
- ・ 規範意識の育成と基本的な生活習慣の確立
- ・ 全ての生徒が自己肯定感の持てる学校づくりの推進

（4）健康（体力・保健・食・安全）

- ・ 定期健康診断・元気っ子健康体力チェック等の結果の有効活用
- ・ 健康教育・食育を通じた望ましい生活習慣の確立
- ・ 体力向上を目指した部活動の推進
- ・ 交通安全指導の徹底

5 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

6 特色ある学校づくり等に関する取組

（1）育てたい資質・能力

友達や教職員、地域住民とのかかわりを深め、協力して行う活動を体験する中で、地域の良さを自覚し、郷土への親近感を持ち、社会の一員としてよりよい生活を築いていこうとする意欲と態度の育成

（2）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

① 学校行事、生徒会活動

- ◇ 学校林および花壇の整備活動
- ・ 体育祭での高齢者との交流
- ・ 文化祭での保護者、地域の子どもや高齢者との交流
- ・ 特別養護老人ホームでのボランティア活動
- ・ 水田耕作体験（2年）
- あいさつ運動での小学生や地域の方々との交流
- ・ 地域行事でのボランティア活動（れんげ祭り、地区文化祭等、交通安全パレード他）

② 総合的な学習の時間

- ◇地域の方々を指導者に迎えて行うホタルの飼育体験学習（1年）
- ・ 水田耕作体験（2年）

7 本市の重点施策・事業と関連する取組

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働を含む」）

① 基本的考え

いじめや不登校、学力の向上など、学校が抱える諸課題は、これまでは学校や教育委員会のみで処理すればよいかのように思われていたが、社会全体の学校に対する関心は高まり、風当たりも強さを増している。家庭や地域社会の理解と協力がなければ、より良い学校運営ができない状況である。そこで、学校の目指す目標や取り組みについて「魅力ある学校づくり地域協議会」や家庭に十分な情報を提供するなどして理解を得た上で、学校に対する協力も得ていく。

② 主な取組

- ・ 協議会での情報提供と意見交換の場の設定
- ・ 学校だよりや学校ホームページでの学校の取組の周知徹底
- ・ 地域行事への参加や生徒のボランティア活動を推進する。

(2) 小中一貫教育・地域学校園

① 基本的考え

瑞穂野地域学校園では、「9年間の連続した学びの中で、本学校園が目指す児童生徒の生きる力を育てる。」を教育ビジョンに、4部会と10分科会を設定し、生きる力を持つ児童生徒を育成する。

② 主な取組

- ・ 学習力分科会で洗い出した本地区の児童生徒の学習上の課題解決に向けた実践
- ・ 小中一貫教育カリキュラムの充実（教科部会の開催）
- ・ 「みずほのあいさつ運動」の実践
- ・ 小中教職員の相互理解、指導力の向上、中1生の学校生活適応などをねらいとした、乗り入れ授業の実践
- ・ 教職員の指導力や資質の向上を目的とした全体研修会の開催（年間1回）
- ・ 各協議会間の情報を交換や地域の行事をまとめたカレンダー作成を目指した瑞穂野地域学校園協議会の開催。（年間2回程度）

(3) 不登校対策

① 基本的考え

不登校を生まないために、生徒一人一人のよさを認め励まして自己有用感を高め、互いを尊重し合う温かな人間関係作りに努める。また、学校だけでなく、SC、関係機関との連携を図り、学校のチーム力を高めて指導体制を強化する。

② 主な取組

- ・ すべての生徒が自己肯定感の持てる学校づくりの推進
- ・ 不登校を出さない指導の展開
- ・ 校内対策会議等を活かした、組織的で迅速かつ継続的な対応
- ・ SC、SSW、関係機関との連携
- ・ 基本的な生活習慣の確立